株式会社イズミ

〒732-0828　広島市南区京橋町2-22（本社）　☎082-264-3211
http://www.izumi.co.jp

会社概要

●沿革

昭和36（1961）年、株式会社いずみを創業、広島市八丁堀に中四国地区初の量販店として1号店をオープン。

昭和55（1980）年株式会社イズミに社名変更。

昭和60（1985）年、POSを導入。昭和62（1987）年には東証一部上場。

平成2（1990）年、「ゆめタウン」形式のショッピングセンターをスタート。「ゆめタウン東広島」オープン。同年、インポート事業として「エクセル」オープン。

平成7（1995）年、九州進出の第一歩として福岡県遠賀町に「ゆめタウン遠賀」をオープン。以後、店舗は中国・四国・九州で74店舗（平成13年12月現在）を数えています。

また、輸入雑貨の卸・販売を手がける「株式会社エクセル」、クレジットカード・不動産事業を手がける「株式会社ゆめカード」、主にゆめタウン内に飲食店を展開する「イズミフードサービス株式会社」、広島市西区に創業者の美術コレクションを展示する「財団法人泉美術館」など、多くのグループ企業があり、結束してイズミ全体の発展を図っています。

株式会社イズミ本社外観

●障害者雇用優良事業所表彰

★広島県雇用開発協会会長表彰（平成６年）
★日本障害者雇用促進協会会長表彰（平成８年）
★広島県知事表彰（平成９年）
★労働大臣表彰（平成11年）

●雇用状況

従業員数　5,354名
うち障害者数　125名
（平成13年6月現在）

業務の概要

◆量販店「イズミ」の運営

◆大型ショッピングセンター「ゆめタウン」、「WIZ WONDERLAND」、「SUNMALL」、「CASPA」等の運営

ゆめタウン博多

障害者雇用に向けて

●取り組み、工夫

◆株式会社イズミでの障害者雇用は、主に各店舗での雇用により進められています。

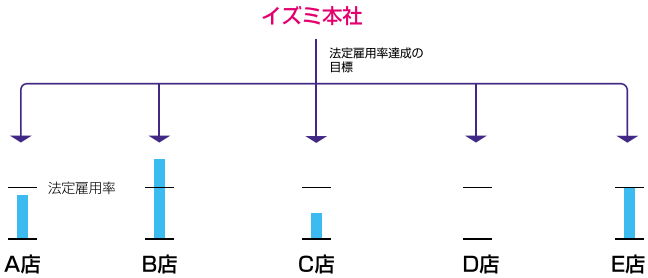
１４年ほど前から、「障害者の法定雇用率を、すべての店舗で達成し、超えよう」との目標を掲げ、ハローワークや障害者職業センターとの連携を進めながら、本社から各店長へ雇用率達成の目標を打ち出しました。

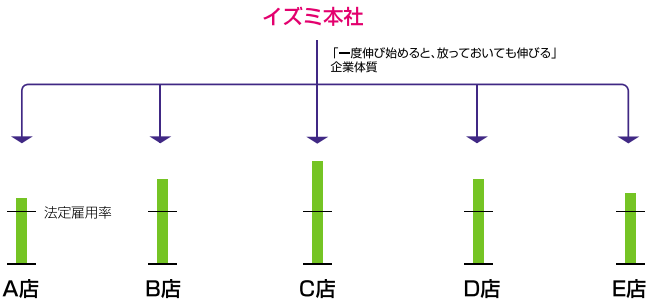
↓

以前から「地場密着、生活密着」の風土があり、古い店舗ほど障害者の雇用が自然な形で進んでいました。そういった店舗が企業全体の雇用率を押し上げていましたが、大型の新店舗では障害者雇用ゼロの店舗もあり、そのような店舗で障害者の雇用を推進しました。

↓

ハローワークとの連携により一人を採用すると、パート店員さん等による自発的な教育や業務のフォローが進み、その後自動的に雇用が進む状況となっています。





◆イズミの雇用に対する基本理念

1.企業は地域の中にあり、地域とともに共生していく使命をもつ

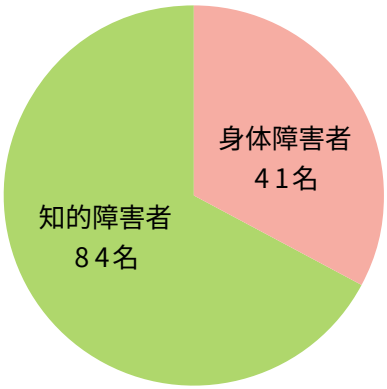
2.地域社会には男性・女性・若者・高齢者・障害のない人・障害のある人などさまざまな人が生活をしており、企業の中にはさまざまな人が働くことが自然の形である

3.障害のある人にできるだけ働く場を提供したい

↓

サービス業（特に小売業）では知的障害者よりも身体障害者の雇用が進むケースが多い中、この理念を持つイズミでは、知的障害者の雇用が多くなっています。

知的障害者と身体障害者の割合



（平成13年6月現在）

◆以上のようにイズミでは、障害者雇用がマニュアルなしに進む体質が醸成されています。

特に知的障害者の作業教育では右の点を実行しています。

「最初からさせなければずっとできない」との考えから、各店舗の店長の判断により反復して業務教育を行っています。

○業務に慣れた時点で、難易度がひとつ上の業務を行わせてみる

↓

○できればそのまま続けさせる
できなければ、他の機会に別の業務に挑戦させる

お客様からのクレームが発生した場合の改善方法は、「繰り返し注意する」というものです。店長からの場合もあれば、同僚からの場合もある“ケースバイケース”ですが、「2、3回繰り返せば改善する」との確信をもち、業務教育を行っています。

○お客様からのクレーム

↓

○店長、主任、同僚などが注意
同じクレームの場合も繰り返し注意する

◆イズミ観音店では、68名の従業員のうち5名が障害者です。

山口良樹店長の判断により、このお店では障害のある人も、商品の発注などに携わっています。

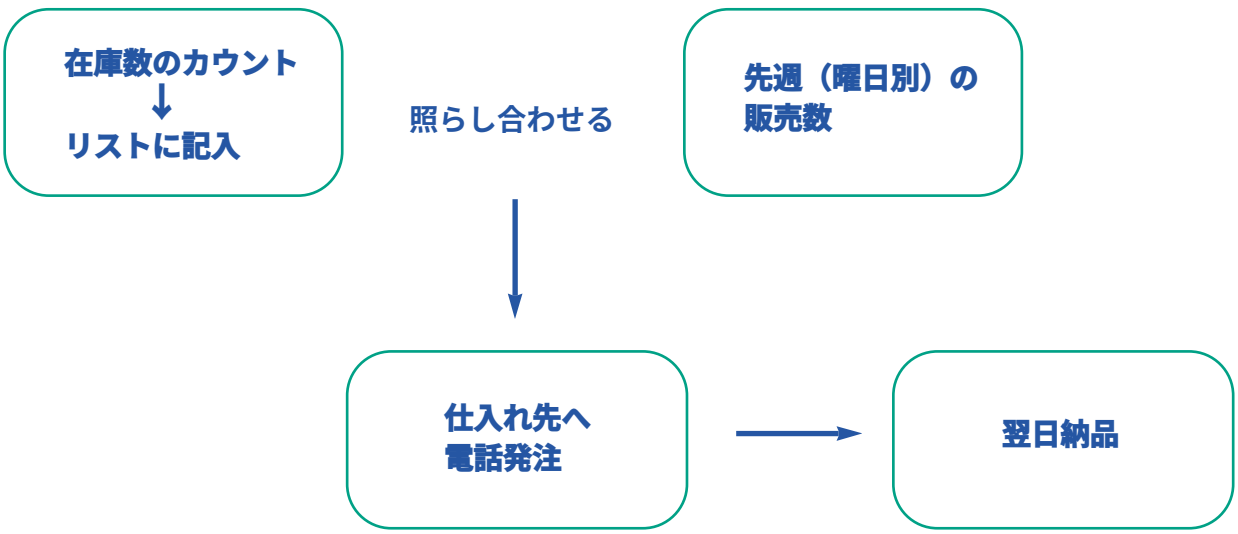
青果の安井千里さん（26歳）は自宅のある広島市安芸区から毎日通勤し、8：30～15：30まで勤務しています。安井さんは商品の補充などを行うほか、モヤシの発注を担当しています。

安井さんは毎日14：00ごろになるとモヤシの在庫を数え、ポケットに入れているリストに数を記入します。それを毎日続けることで、一日に何個必要か、毎週何曜日には何個あるとよいかをリスト上で把握しています。

そのリスト上の明日必要な数と今日の在庫数の差を照らし合わせ、「明日は○個必要」と仕入先に電話で発注します。

イズミ観音店店内

青果の安井千里さん。「いい人がいっぱいいて、観音店で働くのが楽しいです」



現在は他の人のフォローも必要なく、ほぼトラブルなしで発注をこなしています。

Manager's Interview

私も、入社後は、店舗の鮮魚部門に配属されたのですが、そこに知的障害の方がいて、ごく自然に、一緒に勤務しました。私はその人に掃除の仕方を教えてもらったものです。

以前、当社に大手スーパーでノーマライゼーション推進を担当されていた方がおられたのですが、「イズミは気づいたら（障害者の）雇用が進んでいる状態だね、自然なノーマライゼーションという気がするね」と言われていたのを思い出します。特別な工夫や取り組みを大々的に行っている訳でもなく、マニュアルもありませんが、当社ははじめから当たり前のように障害のある方と接していける体質がありますし、それがイズミのいいところであり、誇りでもありますね。

総務部　総務厚生課
三好　毅彦さん

イズミ観音店　店長
山口　良樹さん

当店では障害者の雇用は完全に定着しています。パート社員さんにだいたい任せているのですが、親子ぐらい年齢が離れているせいか、ちょうどいいコンビになって面倒を見てくれているようですね。

意外かもしれませんが、トラブルは少ないですよ。分からないことがあれば聞いてくるし、それに対してこちらがキチンと対応すれば、とてもスムーズに業務が進みます。みんな素直ですしね。お客様との直接のやりとりは最初は難しいかもしれませんが、慣れれば問題ありません。

仕事は、ある程度以上レベルアップすれば、できる人とそうでない人が当然出てきます。できる人にはしてもらいますが、気づいたら障害を持っていてもしている人がいた。それだけです。難しいと思ってやらせないのが一番いけないですね。